論壇

「IATSS Research」の新しい役割

鈴木辰雄
国際交通安全学会
常務理事

A New Role of "IATSS Research"

Tatsuo SUZUKI
Managing Director, IATSS

さまざまな交通の機能が人類の創造する文明の軸のひとつであるとすれば、その機能をより安全快適かつ効率的に生かしていくことは、交通における文化の創造にほかならぬ努力だといえるでしょう。

国際交通安全学会（IATSS）は●学際性●国際性●実際性という三つの基本理念のもとに広汎な英知と情報を集積しつつ、交通の分野における文化的基盤づくりのための活動を続けてきたと思います。

IATSSは交通とそれをとりまくソフトにかかわるテーマを人間の営みの問題としてとらえ、あくまで交通社会の主人公である人間つまりユーザーのために資するという位置づけをしています。学際的見地による問題点の発掘とその課題に対応する自主研究の成果も、現実・現場のニーズより生じる行政からの委託研究の成果も、ともにIATSSの学際性と実際性の融合によるものであり、学会の使命としてそれぞれの重要性に変りはありません。

IATSSの個性は、専門の学術分野におけるアカデミズムを支える「学会」と異なり、交通をとりまくさまざまな問題に対する学術的蓄積をはかりつつ、関連し合う研究や情報の「かけ橋」となり「橋渡し」の役割を果すところにあると思います。委託研究のもつ応用性に富む方法論もIATSSの「かけ橋」としての役割が生かされている好例のひとつです。

IATSSの国際的活動についても同様なことがいえると思います。これまでの国際シンポジウム開催をはじめ「IATSS Research」の発刊など世界の各国との橋をかける態勢づくりがなされてきた結果、昨年開始した、東南アジアを中心とする人づくりのお手伝い「IATSS FORUM」となり、軌道に乗るに至りました。

人間の営みとしての交通問題には、基本的に国際間で共通した哲学、理論が求められ、育っていくものであると信じています。たしかに交通の問題は、あらゆる社会構造との連環の中でとらえられなければなりませんから、国情のちがいによってアプローチにもいろいろなちがいがあると思われます。その中で、資金や技術といった面だけでなく、ソフトの場で日本のもつ役割を演じることが望ましく、また、日本で蓄積された業績を国際的な場において評価、検証することも意義あることと考えます。

今回「IATSS Research」が本格的な国際誌として再出発する背景にも、それが交通の諸問題を通じて、人類の平和と福利の原点としてひとつの役割を担う「かけ橋」と「学術的国際交流の場」たらんとする思想が生きています。

原稿受理　昭和61年11月10日